


令和3年3月31日

（あて先）熊本市長

団体名 傾聴ボランティア くまもと
代表者 職名 代表 氏名 岩崎 静香 

熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

令和2年4月1日付け指令（地活）第1-12号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付決定※を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

以上

1 助成事業名

くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」、「東京エレクトロン九州・マッチングギフト」助成事業
熊本地震の被災者支援、公営住宅等を訪問しお話を傾聴する

2 助成事業の実施期間

令和2年4月1日 ～令和3年3月31日

3 助成事業の内容

公営住宅等を訪問し、熊本地震被災者のお話を傾聴する。震災仮設住宅での4年間の傾聴活動（お茶会カフェ）を発展させ、転入された（災害）公営住宅や地域公民館などを訪問して、新しい環境で生活を始められた一人ひとりに寄り添う傾聴活動を行った。

4 事業の成果

熊本市東区秋津公民館、南区白藤団地集会室、益城町木山仮設住宅で、月1回の傾聴活動を行った。震災被災者家族各回5～16名程度、延べ137名の参加。ボランティアは各回4～7名延べ75名が参加した。コロナ感染対策をしながら、お花などを準備して『カフェ（傾聴）』を開いた。参加住民の方々と時間・空間を共有しお話を聴かせていただくことで、気付きや前向きに生きることなどを語っていただいた。年度中3回にわたる会場閉鎖やイベント自粛の為、当初計画の半分程度の活動となった。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書（様式第16号）
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業収支決算書

◆収入決算

項目	金額	内訳
会費	0	
当該事業による収益	0	
当該事業に対する寄附・協賛金	10,000	社協他主催研修の講師謝礼金を寄付
その他の自己資金	22,932	
当該事業に対する助成金額	65,862	
その他の補助金、助成金等【D】	51,300	元氣シニア応援団体に対する助成（生命保険協会）
合計	150,094	

◆支出決算（事業別）

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	熊本地震の被災者支援、 公営住宅等を訪問しお 話を傾聴する			
人件費	0			0
報償費	0			0
旅費	75,000			75,000
人件費等合計【A】	75,000			75,000
役員費	1,050			1,050
使用料・賃借料	9,600			9,600
事務・消耗品費	64,444			64,444
委託費	0			0
合計	150,094	0	0	150,094

助成申請上限額（助成種別： ステップアップ 助成）

$$〔事業費 150,094 - 控除額【E】 51,300〕 \times 2/3 = 65,862$$

※控除額…超過人件費（人件費等の合計が事業費の1/2を超えた部分）とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	75,000	}	超過人件費【C】※	0
事業費の1/2【B】	75,047		その他助成金【D】	51,300
超過人件費【A-B】…【C】	-47		控除額【E】	51,300

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳（事業別）

事業1 [熊本地震の被災者支援、公営住宅等を訪問しお話を傾聴する]

人件費	無し
報償費	無し
旅費	スタッフ交通費 75人×@1,000円=75,000円
役務費	郵便・切手 1,050円
使用料・貸借料	公民館使用料 3回×@1,500円+3日×@1,700円=9,600円
使用料・消耗品費	<p>茶菓子 14回分 26,230円 持ち帰り小分け袋 1,050円 No.13 花 14回分 15,350円 No.5・7・10・15・17・21・27・29・32・33・38・42・44・49 プリンターインク（インクジェット用紙含む） 6,981円 No.30・35・39 チラシコピー 785円 No.12・22・45・46・47・48 文具 330円 No.43 コロナ対策 除菌シート・スプレー 4,846円 No.1・3・6・11 非接触式温度計 6,578円 No.23 衝立パーテーション材料 2,294円 No.24・25</p>
委託費	無し

事業報告書

実施年度	2020 年度
事業名	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」、 「東京エレクトロン九州・マッチングギフト」助成事業 熊本地震の被災者支援、公営住宅等を訪問しお話を傾聴する
事業期間	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 31 日
事業の目的	地震から4年、(同じ境遇、同じ共同感覚があったと思われる) 仮設住宅から転出して、慣れない住環境・地域での生活を始められた多くの被災者たち。一人一人の孤独と不安に寄り添い、自己肯定感の回復、生きる力を一步一步高めていかれるお手伝いをする。
具体的な事業内容	事業1 熊本地震の被災者支援、公営住宅等を訪問しお話を傾聴する 熊本市東区秋津公民館、南区白藤団地集会室、益城町木山仮設住宅を、月1回訪問し各回2時間程度の傾聴活動を行った。各回被災者家族 5~16 名程度、延べ137名の参加、ボランティアは各回4~7名程度延べ75名が参加した。 コロナ感染警戒下、感染対策を講じお花などを準備して、『お茶会カフェ(傾聴)』を開いた。年度中3回にわたる会場閉鎖やイベント自粛の為(4月5月中止、8月9月中止、1月2月中止)当初計画の半分の開催となった。秋津第二住宅では集会室での開催を計画し管理者と打合せを重ねたが、団地内コミュニケーション不足やイベント自粛の為不可となり、近隣公民館での開催となった。また白藤復興団地や益城町仮設住宅も同様な問題があり、住民の高齢化も加わり中断が増えた。 開催回数は減ったが、コロナ対策の為パーティション、体温計、消毒剤など準備し、椅子配置や、参加人数制限、童謡唱歌の自粛など、様々な対応が求められた。
実施場所	熊本市東区秋津公民館(秋津第2住宅)、南区白藤団地集会室、益城町木山仮設住宅
協力団体	無し
事業の効果・公益性	仮設住宅から転出して、慣れない住環境での生活を始められた多くの被災者たちが、日々の生活で感じていること、不安に思っていることなどをたくさん話していただいたことで、孤立する高齢被災者の心のケアのお手伝い、自己肯定感の回復、家族との心のつながり、地域への愛着、生きる力を高めていかれることのお手伝いできた。またコロナ感染流行で、多くの方々が不自由な生活、引きこもりがちな毎日を余儀なくされた中、ふれあいの場を提供出来たことは、とても有意義だった。
次年度以降の事業展望	復興住宅などへ入居された方や、住宅新設で引っ越しされた方などは、地域、団地住民同士の繋がりがまだまだ希薄である。加えて新型コロナウイルス感染が収束しない状況は、住民の孤立化が明白である。そのため住まいのすぐ傍の集会所などで『お茶会カフェ』の場の提供は、被災者の心のケアだけでなく住民同士の横の関係作りのきっかけになる。『お茶会カフェ』の活動を継続することで、地域の住民に繋がりが出来新しいコミュニティづくりの一助になる。連帯感や安心感のある町づくりに貢献していきたい。
事業への思い(当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	震災後に『お茶会カフェ』を始めてまもなく5年。傾聴の基本である「受容」と「共感」を実践、継続することで熊本地震被災者が地震からの第一歩になり、人が人にやさしい、心優しい福祉の町「熊本市」づくりに貢献できると信じて、これからも傾聴ボランティア活動に取り組みたい。